

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02094

研究課題名(和文) 米軍駐留と性暴力 平和安全保障におけるエンパワーメント

研究課題名(英文) US military station and sexual violence: Empowerment in peace and security

研究代表者

秋林 こずえ (Akibayashi, Kozue)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：90377010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「紛争と性暴力」に関する政策が現代の「紛争下での性暴力」に限定されることの問題点をポスト・コロニアリズムの視点の欠如と、ミソジニーとレイシズムの再強化と指摘した。さらに「紛争と性暴力」を構造的に理解するための「駐留軍と性暴力」という視座について、主に沖縄、韓国、フィリピンでの米軍駐留と性暴力・制度化された性売買にの実証研究を行った。

また韓国とフィリピンでの米軍駐留地域で性売買に従事していた女性たちが国家損害賠償請求訴訟や半人身売買政策提言活動を通じて軍事的安全保障をインターセクショナルな視点から分析して変革を目指す活動を平和構築におけるエンパワーメントと捉えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、ジェンダーの視点からの国際平和安全保障研究や平和研究において、長期駐留軍と性暴力という視座を提示するものである。それは、平和安全保障をジェンダー、ポストコロニアリズム、レイシズム、経済格差などの複数の視点から重層的かつ批判的に検討することを可能にするという学術的な意義を持つ。

また、そのような批判的検討は、国際社会が取り組む女性・平和・安全保障政策がより包括的で実効性を高めるための政策提言に活用することができるという社会的意義を持つ。

研究成果の概要(英文)： The study points out that the political agenda of "conflict and sexual violence" in the international community fails to incorporate a post-colonial perspective in analyzing the current violent conflicts that are often originated in colonial past, and reinforces misogyny and racism by focusing on the current conflicts and sexual violence in these conflicts. In deepening the perspective of sexual violence in conflicts more structurally, empirical study is conducted on sexual violence and institutionalized sex industry and US military stationing in South Korea and the Philippines.

The study argues that the women formerly working in sex industry for US military in South Korea and the Philippines were empowered through their activities including the lawsuit against the South Korean government and anti-trafficking advocacy by gaining the intersectionality perspective on militarized national security.

研究分野：ジェンダー研究、平和研究

キーワード：長期駐留軍 性暴力 エンパワーメント 軍事主義 脱軍事化 フェミニズム 植民地主義 レイシズム

1. 研究開始当初の背景

国際社会における武力紛争下の性暴力に関する研究は、2000年代半ば以降、かなりの程度、進められてきた。この背景には性暴力の可視化と性暴力を平和安全保障政策の課題とすることを求めてきた草の根のフェミニスト平和運動と国際社会のフェミニスト平和運動のつながりがある。この分野での研究は市民社会の運動が押し進めてきたといってもいいだろう。また市民社会による運動は国際政治でもその存在の意義を高めてきた。国際社会におけるフェミニスト平和運動の一つの成果である国連安保理決議 1325 号「女性・平和・安全保障 (Women, Peace and Security, WPS)」(2000年)以降の同課題の一連の安保理決議と関連した国連の政策は WPS アジェンダと称され、国際社会での主要な政策の一つと認識されている。また WPS 課題は紛争終結後の復興政策である平和構築においても中心的な課題となった。

しかし、平和構築における WPS アジェンダは武力紛争下での性暴力への対処に主眼が置かれ、その予防についての議論はあるものの、武力紛争と性暴力の関係についての根本的な分析は不足している。特に武力紛争での性暴力と平時の性暴力との関連は、認識されてはいるが、実証的にも概念的にも研究が進められなければならない点である。

また、武力紛争下の性暴力の被害者(主に女性)をめぐる政策にも課題がある。WPS 課題に取り組む国際機関や各国政府の政策は、性暴力被害者・サバイバーの保護を主としており、被害女性・サバイバーがどのように被害から回復し、さらにどのように平和構築のエージェントとなりうるかは、研究としてはほとんど進められていない。

2. 研究の目的

上記のような武力紛争下の性暴力、WPS アジェンダの研究をめぐる課題の認識に基づき、本研究は武力紛争と性暴力の関係と、武力紛争に関連する性暴力の被害女性・サバイバーの活動について実証研究と理論の構築を目的とする。具体的には、アジア地域に駐留してきた米軍による性暴力について、沖縄、韓国、フィリピンでの実証研究をさらに進めることを目指した。さらに、近年、韓国やフィリピンで被害者/サバイバー自身が展開している、賠償請求裁判などを含めた政治活動を調査し、平和安全保障政策の中でも特に平和構築に関する面において、駐留軍による性暴力の被害者/サバイバーの活動の分析を試みた。

3. 研究の方法

この2つの研究目的を達成するために以下の3点、(1)「武力紛争下の性暴力」と平和構築、(2)駐留軍による性暴力、(3)エンパワーメント、を中心として研究を行った。

(1)「武力紛争下の性暴力」と平和構築については、国連の WPS アジェンダとそれに関連する活動、WPS アジェンダに関する国連事務総長の直轄の組織として 2010 年に設置された「紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表事務所」の活動などを分析した。また平和維持活動と性暴力に関する国際機関の対応などを調査した。(2)駐留軍による性暴力については、沖縄、韓国の駐留米軍の性暴力について資料収集を行い、紛争との関連性について考察した。(3)エンパワーメントは特に駐留軍による性暴力の被害者・サバイバーを対象とした。沖縄、韓国、フィリピンの米軍駐留地域のフェミニスト平和運動が構築してきたトランス

ナショナル・ネットワーク活動、「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」での連帯運動から韓国とフィリピンを調査した。韓国については、在韓米軍基地周辺の基地村で性産業に従事していた女性たち、いわゆる「基地村米軍「慰安婦」」女性たちが起こした韓国政府に国家損害賠償を求める訴訟での原告女性たちと支援運動について調査を行った。

4. 研究成果

2018年のノーベル平和賞がデニ・ムクウェゲ医師(コンゴ民主共和国)とムラド(イラク・ヤジージェイ)に授与された。ムクウェゲ医師は1990年代から続くコンゴ民主共和国での紛争で行われた組織的性暴力の数万人にも及ぶ被害者の治療にあたってきた産婦人科医である。ムラド氏は紛争下の性暴力被害者・サバイバーである。2014年にイスラム国(IS)が宗教少数民族のヤジージェイ京都の村の殲滅を図って襲撃した際に他の女性たちとともに捉えられISの性奴隷とされたが、何とか逃げ出し、その後、紛争下での性暴力を根絶する運動を国際的に広げてきた。二人への授与の背景としてノーベル委員会は、武力紛争下での性暴力は、敵を攻撃する武器であり戦争犯罪であること、またそれは平和安全保障への脅威であることを指摘した。またWPS課題の重要性も指摘した。その上で、二人の功績は、紛争下の性暴力は戦争の武器である(Rape as a weapon of war)ことを広く知らしめ、また紛争下の性暴力の不処罰の連鎖を止めようという努力であるとした。

このような国際社会における武力紛争下の性暴力に対する意識の高まりと国際機関や先進国政府によるWPSアジェンダの実施について、「レイプは戦争の武器だ(Rape as a Weapon of War)」というインパクトの強いメッセージを中心として検討した。すると、国連の紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表事務所の活動などにも見られるように、主に二点の問題点が指摘できた。一点目は、それぞれの紛争の根本的、歴史的原因の分析の不足である。それは現代の武力紛争がかつて植民地支配を受けた地域で起こっており、また植民地支配に起因する、あるいは植民地支配が大きな影響を持つにもかかわらず、ポスト植民地主義の視点からの分析が政策においてはほとんどなされていないということである。もう一点は、「レイプは戦争の武器だ」というフレーズがミソジニーとレイシズムの強化となっている点である。近年の武力紛争下での性暴力を非難する言説は、組織的な行為であることとともに残虐性を強調する傾向が強い。またそこで取り上げられる武力紛争は、アフリカや中東、ラテンアメリカでの紛争である。これらの紛争下で性暴力を受けた女性たちの経験が実際に大変、悲惨であることも事実である。しかし、暴力性や残虐性に焦点を絞ることで国際社会での耳目をひき、その批判がこのような行為を往々にして「野蛮」と評することで、性暴力は暴力的なレイプに限定され、さらにそれらは有色人種によって行われるものとされるものである。

駐留軍による性暴力については、沖縄と韓国での実証研究を進めた。沖縄では、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会が1996年から作成している「沖縄・米兵による女性への性犯罪」にさらに事例を加えることができた。これらは主に、沖縄公文書館で収集された資料と米公文書館(NARA)で収集された資料である。NARAに関しては経費とスケジュールの都合上、現地調査はかなわなかった。しかし、情報公開法を使って米国で、米軍駐留による沖縄での環境その他の被害に関する資料収集を行っているジャーナリストから資料提供を受けることができた。これらにより「沖縄・米兵による女性への性犯罪」は主に英語版の改訂を進めた。韓国に関しては、2014年6月に提起された「韓国内基地村米軍「慰安婦」国家損害賠償請求訴訟」での資料から、1970年代までを中心とした基地村での性犯罪と制度化された性売買についての資料を収集した。また一審判決(2017年1月20日)、控訴審判決(2018年2月8

日)を経て、原告女性たちの証言や弁護団による弁論関連資料、市民運動団体によって作られた支援グループである「基地村女性人権連帯」の資料などを入手した。特に基地村での性病管理についての資料を収集できた。

軍隊による性暴力被害者・サバイバーのエンパワメントについては、主に韓国とフィリピンについて考察を深めた。韓国については上記の「韓国内基地村米軍「慰安婦」国家損害賠償請求訴訟」での原告女性たちの証言や支援グループの政策提言などから、米軍駐留による性暴力を受けた被害女性・サバイバーたちが、軍事政権下の国家安全保障政策を女性的自律と貧困というインターセクショナルな視点から批判し、尊厳を回復しようとする過程をエンパワメントと捉えた。フィリピンについては、現地での資料収集は行わなかったが、2017年6月に沖縄で開催された「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」の第9回会議に参加した、フィリピンのオロンガポ市のブックロード・センターのメンバーから資料を収集した。ブックロード・センターはかつてフィリピンに米軍基地があったときに米兵を顧客とした性売買に携わった女性たちが運営する NGO で、現在、性売買に携わっている女性たちとその子供たちの支援を行ってきている。本研究では、ブックロード・センターが行っている、女性たちに高卒資格を与える活動や地方自治体への人身売買禁止のための政策提言活動や、女性たちの経済的自立のための物品制作と販売などについての資料を収集した。そのような活動が、駐留軍と性暴力被害を軍事主義、性差別、貧困などの複合的な問題であることの分析とそのような社会構造の変革を目指すエンパワメントであると考察した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Kozue Akibayashi	4. 巻 28.3
2. 論文標題 Cold War Shadows of Japan's Imperial Legacies for Women in East Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Positions	6. 最初と最後の頁 659-675
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/10679847-8315179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 秋林こずえ	4. 巻 18
2. 論文標題 国際社会における「紛争と性暴力」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 42 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kozue Akigayashi	4. 巻 1
2. 論文標題 Okinawa Women Act Against Military Violence: An Island Feminism Reclaiming Dignity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Okinawa Journal of Island Studies	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 文京洙	4. 巻 6
2. 論文標題 日韓関係、第3の転機か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 抗路	6. 最初と最後の頁 44 - 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 60. 2
2. 論文標題 韓国2016～2017年ろうそくデモを考える 社会運動の新たな主体をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 38 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城晴美	4. 巻 別冊5
2. 論文標題 『被近代化』の暴力性 沖縄女性の風俗改良から『集団自決』まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北東アジア研究	6. 最初と最後の頁 127-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋林こずえ	4. 巻 3
2. 論文標題 戦時暴力と女性：「長期駐留軍と性暴力」と北東アジア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 憲法研究	6. 最初と最後の頁 89 - 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋林こずえ	4. 巻 2018. 8
2. 論文標題 朝鮮半島の平和を求めるフェミニスト平和運動 Women Cross DMZ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 135 - 145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 2018. 7
2. 論文標題 四・三事件70年：問題解決の到達点と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 168 - 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 6
2. 論文標題 ろうそく革命と文在寅新政権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コリア・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 21 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 8
2. 論文標題 激変する朝鮮半島情勢：変化へのイニチアチブを探る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 67 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮城晴美	4. 巻 16
2. 論文標題 沖縄からの「異議」申し立て 上野千鶴子「『帝国の慰安婦』のポストコロナリズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 53 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮城晴美	4. 巻 94
2. 論文標題 沖縄の女性と憲法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女たちの21世紀	6. 最初と最後の頁 6 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋林こずえ	4. 巻 第57巻第4号
2. 論文標題 「朝鮮半島、沖縄、トランスナショナル・フェミニスト平和運動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 43 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 第57巻第3号
2. 論文標題 韓国“ろうそく革命”と文在寅新政権の課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 文京洙	4. 巻 4月号
2. 論文標題 「韓国において“進歩”とは何か 文在寅新政権の行方」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 抗路	6. 最初と最後の頁 174 - 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 15件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 WPS Agenda and Japan
3. 学会等名 Stockholm Forum 2020: Geopolitics and the WPS agenda (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 Women, Peace and Security in Northeast Asia: ahead of the Beijing+25 and the 20th anniversary of the UN Security Council Resolution 1325
3. 学会等名 Northeast Asian Countries Contributions to the Women, Peace and Security Agenda: Expert Level Discussion (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kozue Akigayashi
2. 発表標題 A Feminist Perspective on Peace
3. 学会等名 International Conference on Women and Peace-making in the Asia-Pacific (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 Northeast Asia Multilateral Security Efforts, Women, and Japan
3. 学会等名 DMZ Forum 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 Korea Peace Now! Women Mobilizing to End the War: Innovative Strategies of Transnational Feminist Peace Building
3. 学会等名 Building Sustainable Peace: Ideas, Evidence, and Strategies
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 Gender and State Security: A Feminist Challenge from Okinawa
3. 学会等名 同志社大学・チュービンゲン大学共催第三回国際シンポジウム「「ダイバーシティ」を尊重する社会構築への挑戦」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 HARUKO”の半生からみる在日済州人女性の労働と生活（韓国語）
3. 学会等名 済州女性国際フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 ポスト冷戦期の日韓関係 過去清算と反動の相克」
3. 学会等名 コリアNGOセンター設立15周年シンポジウム ポスト冷戦期の日韓関係 その打開の道をさぐる（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 Feminists must support peace on the Korean Peninsula
3. 学会等名 Seoul International Women Peace Symposium (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kozue Akibayashi
2. 発表標題 State violence and women
3. 学会等名 Jeju Forum ofr Peace and Prosperity 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋林こずえ
2. 発表標題 国際社会における「紛争と性暴力」
3. 学会等名 女性・戦争・人権学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 移行期正義と済州4.3
3. 学会等名 国際高麗学会ソウル支会20周年記念学術大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 移行期正義と民主主義
3. 学会等名 5.18記念財団国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 北東アジアの新秩序と日韓関係
3. 学会等名 北朝鮮の核問題の新局面と激動する北東アジア（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮城晴美
2. 発表標題 「被近代」下の沖縄女性の地位：風俗改良から「集団自決まで」
3. 学会等名 沖縄ワークショップ「コンタクトゾーンにおける「近代」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋林こずえ
2. 発表標題 「慰安婦」問題の現在と展望」
3. 学会等名 日本平和学会秋季研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 「日韓関係：過去・現在・未来」
3. 学会等名 Jeju Forum for Peace and Prosperity 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋林こずえ
2. 発表標題 Security in the Asia-Pacific: Women's Contribution to Peace
3. 学会等名 Security in the Asia Pacific Forum (Australia National University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 文京洙
2. 発表標題 グローバル化下での韓国の市民運動 国民基礎生活保障法をめぐる政治過程
3. 学会等名 The 13th ISKS International Conference of Korean Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮城晴美
2. 発表標題 「日米の政治のはざまで 沖縄における米兵による性犯罪の実態と女たちの取り組み」
3. 学会等名 済州島四・三事件 70周年記念国際シンポジウム 「国際社会と済州四・三 日本からの視点」 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 文京洙	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 済州島四・三事件 「島のくに」の死と再生の物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	文 京洙 (Mun Gyongsu) (70230026)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	
研究分担者	宮城 晴美 (Miyagi Harumi) (80618786)	琉球大学・グローバル教育支援機構・非常勤講師 (18001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------